

第 119 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
未収金	立替金	減価償却費	満期保有目的債券
貸付金	売買目的有価証券	繰越商品	積送品
未着品	車両	仮払法人税等	支払手形
買掛金	借入金	未払金	前受金
仮受金	修繕引当金	車両減価償却累計額	委託買付
未払法人税等	受託買付	売上	受取手数料
有価証券利息	有価証券売却益	保険差益	仕入
売上原価	支払保険料	修繕費	保管料
租税公課	法人税等	有価証券売却損	未決算

- 大聖寺商店より、次の買付計算書とともに商品の送付を受けた。
 - 買付金額・・・スーツ 1 0 0 着@50,000 円=5,000,000 円
 - 買付諸掛・・・支払運賃および保険料 40,000 円+保管料 60,000 円+買付手数料 100,000
 - 買付代金合計・・・買付金額+買付諸掛=5,200,000 円
 - 手付金額・・・2,200,000 円 ■差引請求金額・・・3,000,000 円
- 保有している船舶に対して定期的な修繕を行い、代金 500,000 円は次月末に支払うことにした。なお、この船舶については、200,000 円の修繕引当金が設定されている。
- 平成 19 年 12 月 13 日に 980,000 円で売買目的のために購入した額面 1,000,000 円の国債を平成 20 年 6 月 12 日に端数利息を含めて 982,000 円で売却し、先方振り出しの小切手を受け取った。この国債の年利率は 2%であり、利払日は 3 月 31 日と 9 月 30 日である。なお、利息の計算は 1 年を 365 日として行っている。
- 平成 20 年 3 月 31 日に決算を行った結果、法人税額が 4,000,000 円、住民税額が 2,000,000 円、事業税額が 500,000 円となることが確定した。これらの税額のうち、法人税は 3,000,000 円、住民税は 1,500,000 円、事業税は 200,000 円をそれぞれ中間納付している。
- 営業用の車両（取得原価 1,000,000 円、減価償却累計額 500,000 円、間接法による）が 9 月 30 日の事故により使用不能となった。この車両には 500,000 円の保険が掛けられており、この車両に対して月割りで当期の減価償却費を計上するとともに、保険会社に対して保険金支払いの請求を即刻行った。当社の決算は 3 月 31 日であり、当該車両の減価償却は定額法（耐用年数 9 年、残存価額は取得原価の 10%）による。